

2011 年度 森基金研究成果報告書

研究課題名	アジア全体における資源循環型社会構築にむけた考察		
研究代表者氏名	青木桜子	所属・学年	慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程 1年
研究課題	<p>循環型社会形成の要となる廃棄物の適正処理、再生可能資源の再適利用に焦点を当て、バーゼル条約、インドネシア B3 廃棄物関連法案と現行の日本国内の廃棄物処理法の廃棄物の定義の齟齬の問題について、日尼間の E-WASTE 問題を例にとり関連性及び当該齟齬が与える悪影響についての検討を行うことで、アジア圏での循環システム形成に対する障壁の問題提起及び解決を図る。</p>		
背景	<p>現代社会は産業革命以後の急速な科学技術的・経済的発展により大量生産・大量消費・大量廃棄社会へと移行した。その弊害として廃棄物量は増大し、それに伴い廃棄物の不法投棄、処分に伴う有害物質の排出などの問題が浮上しさらに土壌汚染、地球温暖化への影響、資源の枯渇など人類存続のためのより規模の大きい問題に発展、深刻化している。</p> <p>これらの問題解決のためには現在の大量廃棄社会から、廃棄物の減量化、可能な限りのリサイクルの実施により、エネルギーを循環させる社会構造へ根本的に社会構造を変化させることが不可避である。政治、経済両面においてグローバル化した現代社会においては、アジアという、日本一国の枠組みを超えたより大きな規模での国際的な資源循環システムの構築が求められている。</p>		
活動報告	<p>1．外務省地球環境課におけるインターンシップ インターンシップ期間；2011年8月1日~8月19日 課室；外務省国際協力局地球環境課 インターンシップ内容；環境関連条約の英文和訳、資料作成、資料収集及び閲覧を行った。また外務省職員及び環境省職員の方に特定有害廃棄物の越境に関するバーゼル条約の問題点と国際的な循環型社会形成の障壁に関するインタビューを行った。</p> <p>2．UNEP/IETC でのフィールドワーク 調査日；2011年8月24日 調査対象；UNEP/IETC 調査内容；各職員に E-waste management および日尼間の中古電子機器輸出入関連のインタビューを行った。</p> <p>3．インドネシアでのフィールドワーク 記述的(質的)調査(事例調査)：自由面接法 調査時期：平成 23 年 9 月 30 日～10 月 7 日 調査対象； Executive Secretary of Basel Convention Regional Centre for South-East Asia(BCRC-SEA) Ministry of Environment (MOE) TES-AMM Indonesia</p>		

Prasadha Pamunah Limbah Industri (PPLi)

調査目的； 廃棄物処理及び中古電子機器のリサイクル等に関するインドネシア国内法の資料調査、インドネシアにおける有害廃棄物処理の実地観察、バーゼル条約地域事務所におけるアジアの特定有害廃棄物の越境に関する議論の近時の動向調査を行い、インドネシア国内及びアジアでの国際的な廃棄物処理に関する諸政策の動向について知見を深めることでアジアにおける効率的な廃棄物資源の再活用に向けた研究の実効性の向上を図ることを目的とする。

調査内容； フィールドワークを通して、インドネシアの有害廃棄物処理の法律に関する英文資料 Enri DAMANHURI and Tri PADMI, Institut Teknologi Bandung (ITB) “Current Situation of Waste Recycling in Indonesia”.p24-25 を入手し、日本語に訳してインドネシアにおける有害廃棄物の関連法に関する知見を深めた。また、上記調査対象機関を訪問し各職員に E-waste management および日尼間の中古電子機器輸出入関連のインタビューを行った。具体的なインタビュー内容及び調査結果に関しては修士論文内で発表予定の為詳細な記載を控える。